ダビデの犠牲

キー・ヴァース「しかし、ダビデ王はアラウナに答えた。私は、あなたのものを取って、主にささげるつもりはない。私は、何の犠牲も払わない燔祭を献げるつもりはない。」

第一歴代誌21:24

厳選された聖典

第一歴代誌21:14-30

主はダビデについて、彼は自分の心に適う者であると言われた。(サムエル記上13:14、使徒13:22)。これはダビデが一度も罪を犯さなかったからではなく、罪を指摘されたときの謙遜と悔い改めの心のゆえである。

ダビデは自分の心の奥底にある感情を表現してこう書いた。神よ、私の内に清い心をお造りください。(詩篇51:10)。ダビデは、生まれつき自分の心が常

に清いわけではなく、
、肉の弱さゆえに間違った精神を現しがちであることを認識していた。それにもかかわらず、彼は自分の罪に同情せず、自分がきよめられるように、自分の内に「正しい霊」が新たにされるように神に祈った。

ダビデの悔い改める心の一例は、イスラエルの民の数を数えるなという命令に従わなかったダビデが、軍勢の隊長ヨアブの抗議にもかかわらず、主の御前で罪を犯したときである。その時、主はダビデの予見者ガドに語りかけ、ダビデにこの罪に対する懲らしめとして、3年間の飢饉、3ヶ月間の敵による滅亡、3日間の疫病という3つの選択肢の中から一つを選ぶように指示された。自分の弱さを悟ったダビデは、謙遜のうちに選択を断り、"主の慈しみは偉大である

"と知っているので、主の御手に委ねたいと説明した。サムエル記下24:2-4; 歴代誌上21:1-13

神は三日間の疫病の懲らしめを選ばれ、イスラエルの7万人が短時間のうちに死んだ。それから神は、エルサレムを滅ぼすために天使をエルサレムに遣わされたが、間もなく天使に言った！その時、主の御

使いはエブス人アラウナの脱穀場（
）のそばに立っていた。"ダビデは神に懇願し、罪を犯したのは自分であって民ではないことを認め、神の懲らしめを自分自身に受けるように求めた。

天使を通して、神はダビデに、「エブス人オルナンの牧場に、主に祭壇を築き」、主にいけにえをささげるよう指示された。オルナンはまず「御使いを見」、次にダビデが到着するのを見た。ダビデは、その脱穀場の「全代価」を支払うよう求めた。それを買った後、彼は「焼き尽くす供え物と平和の供え物をささげ、主を呼び求めた」。主は
"天から燔祭の祭壇の火によって彼に答えられた"。
これらの犠牲に基づいて、主は災いを止められた。

ダビデが主に捧げるいけにえを捧げるために、オルナンの脱穀場を贈り物として受け取ったり、それ以下の金額を支払ったりするのではなく、正価で購入することにこだわったことで、ダビデの主への献身の誠意が見事に明らかになった。彼は、自分が犠牲を払うことのない燔祭を主にささげたくないのだと説明した（24節）。（24節）。これは神の民すべてにとって良い教訓である。もし私たちが主の奉仕のために、とにかく必要のないもの、あるいは私たち

、他に使い道のないものだけを捧げるなら、私たちは主に対する真の献身の証拠をほとんど、あるいはまったく示さないことになる。

この記述の最後の注釈として、ダビデが買ったオルナンの脱穀場は、後にソロモンが "主の家" である神殿を建てる場所であった。第二歴代誌3:1